

「世界平和の祈り」一つに単純化した五井先生の教え

2010年11月21日 於：神奈川集会

五井先生の教えを正しく行じている唯一会

当初私は、「世界平和の祈り」の中心者として立つつもりはありませんでした。五井先生から深く愛され、五井先生の養女となった昌美先生が五井先生の教えを継承するのが、常識的に考えて自然であると思ったからです。ところが残念なことに、昌美先生は五井先生の教えから外れてしまったため、私は五井先生に恩返しをするつもりで、昌美先生をお助けしようと、会員の人に知られぬように、昌美先生に恥をかかさぬように、ひそかに私は昌美先生に直接連絡を取り、昌美先生の教えの誤りを指摘して、いち早く修正して下さるように、平身低頭してお願い申し上げたのでした。

しかし、昌美先生にはとうとうご理解いただけませんでした。かといって、そのままにしておくわけにもゆかず、五井先生の教えを守り、「世界平和の祈り」を守るために、「隗(かい)より始めよ」(転じて、「言い出した当人から始めるのが上策だ」という意味)という中国のことわざのように、最初に私が一人で「世界平和の祈りは最高の祈りである」と提言し始めたのです。それから既に20年の月日が経ってしまいました。20年にもなりながら、唯一会の人数がいまだに少人数なのは私に欠点があったからなのです。

一つは自分の甘さで、昌美先生への愛情から、「今は誤解されているけれども、もうすぐ昌美先生は五井先生の正しい教えに気がついてくれるかもしれない」と淡い期待をいただき、世間に発表するのがズルズルと遅れてしまったのです。

もう一つの私の欠点は、自分を卑下したことで、神様から天命を授けられたのに、「自分なんかとんでもありません」と逃げ回っていてグズグズしていたら病気になってしまったのです。これは植芝盛平先生も体験されたようですが、神様からの天命に逆らうと、私のような体質の者は原因不明の病気になってしまうのです。植芝盛平先生は、神様の天命があったのに、やはり自分を卑下されていたら一年以上もの間寝込んでしまって、「神様のみ心のままに行ないます」と誓ったら、その日のうちに病気が治ったというお話があるのです。私も重大な天命に震える想いでしたが、覚悟して「神様のみ心のままにやらせていただきます」と言ったら、ようやく寢床から起き上がったのです。この二つの欠点があったために、五井先生の教えを広めるのが遅くなってしまったのです。

五井先生は、生長の家の教えについて、「今となってはもう修正できなくなってしまった」と嘆いておられました。過去十年間の昌美先生の言動をずっと拝見してきて、五井先生が生長の家についておっしゃったように、昌美先生の教えについても、「今となってはもう修正できなくなってしまった」と思われます。今さら「光明思想徹底行、我即神也・人即神也・人類即神也の宣言行と印を組む行、願望成就の行などは間違いだった」とは

発表できないだろうと思われるからです。「世界平和の祈り」という原点に帰ろうとしな
いばかりか、「世界平和の祈り」は「人類即神也」という新しい方法の付け足しになって
しまっています。

もはや白光真宏会が、「世界平和の祈り」一念の宗教団体に戻ることはないと思われま
す。五十年後に元通りになったとしても、それでは遅過ぎます。そうなりますと、五井先
生の教えを継承し、「世界平和の祈り」一念にやっている唯一会の存在価値は当然高まる
わけです。これは自意識的に唯一会の希少価値を高めようとしたわけではなく、他がやら
なくなったので、自然と唯一会の存在価値が浮かび上がってきたわけです。他と争うこと
もなく、このように自然に唯一会の存在価値が高くなっていくことは、人知でできること
ではなく、神様のみ心が働いて下さっているからなのです。

「唯一」の長所は「あいまいさ」をなくす力があることです

「世界平和の祈りは唯一最高の祈りである」というのは、唯一最高という言葉には、欠
点としては排他的な意味が含まれているものの、長所としては「あいまいさ」を無くす力
があります。

たとえば現在の白光真宏会には、「世界平和の祈り」以外に以下のような多くの行法が
あります。

- (1) 消えてゆく姿の行
- (2) 「悪は無い」と自己否定する行
- (3) 願望成就の行
- (4) 光明思想徹底行
- (5) 地球世界感謝行
- (6) 我即神也 (印) の行
- (7) 人類即神也 (印) の行
- (8) 宇宙神マンダラ刻印の行
- (9) ピラミッド神事 (内省の行)
- (10) 簡略印 (正式印) による世界各国の平和の祈りの行
- (11) 講師の浄めの印
- (12) 宇宙究極の浄めの印
- (13) 宇宙究極の真理を司る印
- (14) 宇宙の創造と進化を司る印
- (15) 宇宙の大調和を司る印

これらの行の中で、一体どれが究極の唯一最高の行なのか、昌美先生の説明では分かり
ません。私はこれらを含めた行の中で「世界平和の祈り」が唯一最高の究極の祈りである

と明言しているのです。

なお、唯一会としては、五井先生の教えの真髓をピュアーに行じてゆくのが第一だと思います。そして、他の宗教者の方々と共に祈る場合や一般の人々向けに、宗教色は除いた簡略化した「世界平和の祈り」のバージョンも用意しておくことがよいでしょう。「五井先生、ありがとうございます」と私たちは祈っておりますけれども、五井先生は「『世界人類が平和でありますように』と祈れば五井先生を呼んでいるのと同じだし、それは『五井先生ありがとうございます』と祈っているのと同じだから、一般向けには『世界人類が平和でありますように』だけを勧めてもようございます」とおっしゃっていました。

五井先生の教えこそ最先端の教えである

五井先生が「こうした教えは過てる宗教である。真実の宗教指導者はこうしてはいけない」と説いたことを昌美先生がやっちゃっているのは不可解ですが、それにもまして不可解なことは、五井先生の教えをさんざん聞いた人々が、昌美先生のお話にも何の疑問も持たず、昌美先生について行っているということです。誤った教えを説く方もおかしいけれど、その誤った教えの正誤の区別もつかず、言われるままについていく方もどうかしていると思います。

「昌美先生の教えは五井先生の教えを発展させたものだから、昌美先生の教えをやっていれば最先端の（ある講師の言葉を借りれば大学院の）宗教をやっていることになる」と、多くの会員さんたちは思っているようです。だから、古い五井先生の本を読もうとしない。「昌美先生の教えが新しい教えだ」と言えば、それは暗に「五井先生の教えは古い」と思われるわけです。

そこで、私としては五井先生の本を読んでほしいわけですが、白光真宏会の研修会の行事の内容を見ると、「五井先生の本」だけでなく、必ず「昌美先生の本」も持参して勉強するようにと載っています。「五井先生の本」だけを持参する研修会は、白光真宏会の行事の中には一つもないのです。これは白光真宏会の幹部が昌美先生に配慮しているためと思われる。そして結果的には、昌美先生の教えを主に研修して、肝心の五井先生の教えはほんの付け足しのように加えるだけです。こんなやり方をしているのは、いつまでたっても五井先生の教えが会員さんたちに理解されるはずがありません。千人二千人と講師を養成したところで、それでは世界人類の光明化にはなんの役にも立ちません。

私たちは、五井先生のご著書を皆さんにお勧めします。五井先生の教えは決して古くはありません。今だからこそ、今から五井先生の教えは真価を発揮してくるのです。昌美先生のお話をよく聞き、昌美先生の本をよく読んだ皆さん、昌美先生の教えを徹底的にやってみてください。そして、徹底的にやりつくしたら、その後に五井先生の本を読んでご覧ください。そうすれば、五井先生の教えこそ、昌美先生の教えよりもはるかに進んだ最先端の

教えであることが判ってくることでしょう。

五井先生の教えと私の教え方～ある人の質問に答えて

貴方は、私の教えをまだすべてお読みになっていませんね。貴方は、五井先生の教えを分かったつもりで、まだほんとうには分かっていない危うい段階なのです。貴方は、五井先生の教えを貴方の自己流で解釈してやってゆくのか、それとも私の指導を素直に聞いてやってゆくのか、いま決めなくてはなりません。なぜならば貴方は私の指導した通りに素直にやらないで、自己流に五井先生のご本を解釈して、自己流にやろうとしているからです。

貴方は以前、『如是我聞』の「私は守護神と一体である」という五井先生の教えについて、「私は心からの自覚などできません。どうしたら自覚できるようになりますか？」と私にご質問をして下さいました。そのとき私は、「神様との一体観を深める簡単な方法は、『守護神様、守護神様と私が一体でありますように』『守護神様、ありがとうございます』と祈っておりますと、自然に守護神様との一体観を自覚できるようになるのです」と、守護神との一体観を自覚できる方法を教えました。しかし、貴方は私の言う通りに素直にやらないで、つまりは私を信じないで、『如是我聞』に書いてある五井先生の言葉を、まだご自分で消化しきれないうちに、そのまま自己流でやってしまったわけです。

貴方は、その時は「私は神と一体であるなどとは私はとても自覚できません」と書きながら、今度は五井先生のご本を読んだ影響を受けたらしく、「私は神様と一体であると強く思ったら、波動が変わってしまい、自分なりに解決した」と書いてきました。「私は神様と一体である」と強く念じさせる方法を、私は貴方に一度も教えておりません。それなのに、なぜ私の言うことを聞かずに、「私は神様と一体である」という行をしてしまったのですか？

私のホームページの唯一会の教義と過去の私のログをすべてお読みになった方は既にござんじと思いますが、五井先生の教義と「世界平和の祈り」を忠実に守り実行する点は五井先生と私は全く同一ですが、教義の解説の表現や方法については五井先生と私は少し異なっているのです。

五井先生の教えには、編集の仕方が至らないために、誤解されやすい言い方、書き方が多々あるのです。私のようにすべてが判ってしまえば何を読んでも誤解しないのですが、初心者が、否、初心者に限らず、長年五井先生の教えを学んだ人でありましても、うっかりすると五井先生の教えを誤解してしまい、本道から外れてしまうことがあるのです。その誤解されやすい一つが「私は神様と一体である」という五井先生の言葉であるのです。このような五井先生の言葉を確固とした論拠として、「五井先生もお説きになっているのだ」として、自己流で「私は神である」という宣言の言葉を創り、「これは五井先生の新

しい教えである」と教えている指導者もいるのです。しかし、私はそうしたやり方を教えてはおりません。（※それには深い意味があるからなのですが、その深い意味と理由については既におきましたので、皆さんもご自分でその過去ログを探して読んで下さい。）

皆さんが過去の過ちを二度としないような教え方を、私は五井先生から新しく教えていただいたのです。私の教え方には、真理の言葉や心の法則を少しでも用いるようなやり方はまったく出てまいりません。私は、余計なことを教えずに、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」に行法を統一してしまったのです。それは、過去の過ちを二度とさせないようにとの五井先生のご配慮が強く働いているからなのです。

五井先生の本を読んで下さることは大変ありがたいことなのですが、今度はその五井先生の言葉の一つ一つに引っかかり、自己流で解釈してしまうと、五井先生の本道から外れてしまうのです。五井先生のご本を読みながらも、実行することは、しばらくの間は目新しい行法に走らずに、私のいつも言っているように「消えてゆく姿で世界平和の祈り」だけをやってほしいのです。五井先生の教えの真意を理解するまでは、他の行法に目を移さず、倦まず弛まず「世界平和の祈り」を祈り続けなくてはなりません。

もし私のこの言葉がよく理解できなければ、一度私から離れて自己流で思う存分やってみる事です。「森島先生、どうぞ宜しくご指導お願い申しあげます」という言葉が真実ならば、目新しい言葉に目を奪われずに、私の説いたことをしっかりと守って下さい。それがあなたのためになるのです。

外国の宗教書に惑わされないこと

白光真宏会の古い会員の人でも、案外五井先生の本を読まない人が多いのです。読んで一回目を通してただで分かったつもりになっている。そして、五井先生のご本だけでは物足りなくて、五井先生の教えよりもすぐれた教えがあるかもしれないと、外国の宗教書を盛んに読みあさって、「心の法則」や「真理の言葉」に把われ引っかかって横道にそれてゆくのです。

ですから、五井先生の本をいつも自分のそばに置いて、いつも自分のバッグに入れて持ち歩いて、繰り返し繰り返し読み返すことをしていないと、他の宗教者の思想に影響されて五井先生の教えを忘れてしまうことがあるのです。五井先生よりもすぐれた教えは、もう二度とこの地球には現れないのです。だけど、肉体の五井先生はいないし、本屋へ行くと、ベストセラーとして他の宗教者の本がたくさん並べられていると、「五井先生の教えよりこちらの方がすぐれているのかなあ」と、ふと惑わされるのです。私くらいになると、もちろん少しも惑わないのですけれど、初心者のまだ浅い人は迷ってしまう。だから、五井先生の代わりに肉体を持った私が常に「世界平和の祈り」を提唱していて、常に実践していることを知らせる必要があるわけです。「世界平和の祈り」をしている私の存在を知ってハッと本心の我に戻り、「そうだ、私も五井先生の教え一筋でやってゆこう」と思っ

て唯一会に入ってきてくれる人が多くなったわけです。そして、「世界平和の祈り」に全託した途端、今までにない深い安心感に包まれるようになった体験をしています。

もちろん対外的には、「世界平和の祈りに何を付け加えても、それは結構です」と話した方がいいのです。そう言えば排他的になりませんか。と、五井先生が「世界平和の祈り」に何かつけ加えているかという、何もつけ加えていないのです。だから、五井先生も建て前と本音を使い分けているんですね。言外のその本音を私たちは汲み取る必要があるのです。

質疑問答：「世界平和の祈り」一つに単純化した五井先生の教え

【ご感想-1】 [天と地をつなぐとは、天の理想を地に実現するという意味だと思います]

やっと分かりました。地とは天の「理想」に対して「現実」を意味します。よって、天と地をつなぐとは、理想と現実をつなぐ、つまり、天の理想を地に実現するという意味になると思います。

【お答え-1】 [消えてゆく姿の中庸の教えによって理想と現実が一つにつながったのです]

その通りです。「天と地をつなぐ者」とは神我一体を意味するものですが、もう一つの深い意味が隠されていて、それが「理想と現実をつなぐ者」という意味であるのです。生長の家の理想に片寄った真理の教えでは、理想と現実がつながらなかったのです。

「私は神の子である。あなたも神の子である。自分もあなたも完全円満であり、病氣無し、不幸無し、悪無し」という生長の家の実相論は、初めは喝のように素晴らしい効果を与えるのですが、次第に数年もたってくると、いつまでも神の子にならない自分に苛立ってきたり、自分に嘘をつき、人に嘘をつかなくてはやってゆけないことに心苦しくなってくるのです。さほど正直でない人は、自分の魂のありかも知らずに、神の子になるどころか偽善の皮を厚くしてゆき、偽善者へと転落してゆくのです。真理の教え、実相論が、理想に片寄っていたがために、その教えを現実へとつなぐことができなかったのです。

釈尊やイエス・キリストも素晴らしい真理を説いていたのですが、真理の言葉をずばりと言われても、一般民衆が現実に実行するには困難な教えであったために、釈尊やイエスの教えでは世界平和を実現することはできなかったのです。天の理想と地の現実をうまく結びつける教えが現代になってどうしても必要になってきて、五井先生の「消えてゆく姿」の中庸の教えが現れたのです。この「消えてゆく姿」の教えによって理想と現実が一つにつながったのであり、「心の法則」を捨てることができ、矛盾のない中庸実相論だけの一元論にすることができたのです。これが五井先生の教えの最大の特長であるのです。

【ご感想-2】 [生長の家の教えの実相論の他のもう一つの教えとは心の法則のことです]

生長の家の教えにある「人間の实相は完全円満であり、老病貧苦無し」という実相論の

一つの思想の他に、もう一つの教えとは、「心の法則」（想念の法則・因縁因果の法則）のことです。それは、「心はすべての創造者であり、人間の想念する通りに事物は出来上がるのである。人間が現在苦しんでいるのは、人間の想念が悪かったのであり、誤っていたのである。悪を想えば悪が現れ、善を想えば善が現れる。あなたがいま病んでいるとするならば、それはあなたの心の中に、行ないの中に病む原因があるのである。すべてはあなた自身の責任なのである。あなたの心の影なのである」という教えです。

【お答え-2】 [心の法則を捨てた五井先生は守護霊への感謝の祈りに行法を単純化した]

心の法則は、相手のためと言いながら、結局は相手を責める道具になってしまうという欠陥があることを五井先生は悟り、心の法則の教えはきっぱりと捨て去ったのです。「業想念が消えてゆくと共に本心本体が現れてくるのだ」という中庸実相論があれば、本心本体が現れてくるのですから、心の法則が必要なくなるわけです。

生長の家にあった「理想に片寄った実相論」と「心の法則論」の二つの矛盾した思想を、五井先生はまず「心の法則論」をきっぱりと捨て去り、「理想と現実をつなぐ中庸実相論」一元論へとまとめたのです。しかし、未来は必ず善くなると分かっているにもかかわらず、人間は現実の救いを欲するものです。そこで現実の救われの方法として、阿弥陀仏信仰と同じに守護の神霊にすがることを教えて下さったのです。

守護霊様があなたを二十四時間見守っていて下さって、今のあなたの悩みに今すぐにアドバイスして下さいます。今どうしたらよいのか、今あなたがなすべき最良の判断を下してくれるのです。この守護霊様のお導きに素直に従っていただければ、自然と運命が開けてくるし、自ずと良い人との出会いもあるし、幸せで順調な人生を暮らせることになるのです。この守護霊への感謝の祈りに行法を一つに単純化したのが五井先生の教えであるのです。

なお、白光真宏会が出来た時には、「守護霊様、守護霊様、ありがとうございます。守護神様、守護神様、ありがとうございます」という祈りだけだったのです。この祈りさえしていれば、「私は神の子である」と無理に宣言をしなくても、いつしか自然に、誰でもが神の子の本体を完全に現し得るようになるのです。そして、個人人類同時成道の祈りとして一つに単純化した「世界平和の祈り」が完成したのです。